

仕訳問題 その2 (問題)

次の各取引について仕訳をしなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

| | | | | |
|-------|-----------|-----------|-------|-------|
| 減価償却費 | 修繕引当金 | 売上割戻引当金 | 商品評価損 | 前受金 |
| 支店 | 研究開発費 | 損益 | 機械装置 | 支払手形 |
| 手形借入金 | 受取手形 | 建物減価償却累計額 | 売掛金 | 未着商品 |
| 繰越商品 | 特許権 | 売上 | 消耗品 | 支払利息 |
| 本店 | 売上割戻引当金繰入 | 修繕費 | 特許権償却 | 棚卸減耗費 |
| 当座預金 | 機械減価償却累計額 | 建物 | 仕入 | 立替金 |

1. 美南商店は、建物の修繕を行い、代金 1,000,000 円は当座預金より支払った。なお、このうち 300,000 円は耐用年数を延長する効果があると認められた。また、修繕引当金が 450,000 円設定されている。
2. 三郷商店は、新製品の発売に先立ち、@¥40,000 で予約を受け付けていたが、本日、100 台の新製品を予約客に発送した。なお、昨日までに 150 台分の予約があり、代金の全額を受け取っている。
3. 流山商事の本店は、本支店合併の純利益を計算するに際し、支店より支店純利益 280,000 円の報告を受けた。なお、本支店間の未達取引を調査したところ、本店で立替払いした支店負担の利息 30,000 円の取引が支店に未達であったことが判明したが、これに関して支店では未処理である。解答は、未達取引考慮後の支店純利益を計上するために必要な本店の仕訳だけを示せばよい。
4. 松戸商店は、かねて約束手形を振り出して現金 800,000 円を借り入れていたが、支払期日までに代金を支払うことが困難であると判断したため、手形の更改を行い、旧手形と新手形を交換した。なお、期日延長にかかる利息 15,000 円は新手形の額面に含めることとした。
5. 八柱商店は、手持ちの船荷証券 520,000 円（うち引取費用 20,000 円）を 850,000 円で得意先市川商店に売り渡し、代金は掛けとした。これに伴う売上原価は仕入勘定に振り替えること。
6. 市川商店は、得意先船橋商店に対する掛け代金の回収に際し、市川商店を受取人とする為替手形 450,000 を振り出し、船橋商店の許可を得た。
7. 池袋商店は決算において、期末商品棚卸高を計上した。当店の期末商品の帳簿棚卸高は 320,000 円（@¥640×500 個）であるが、実地棚卸高は 480 個であり、商品の時価は 1 個当たり 40 円安くなっている。なお、当店に期首商品は存在せず、減耗および収益性の低下による評価損は売上原価に含めないこと。
8. 板橋商店は研究開発のため、消耗品 120,000 円と機械装置 800,000 円を購入し、代金は小切手を振り出して支払った。これらの支出は、すべて当期の費用として処理することとした。
9. 大山商事株式会社は、決算にあたり、売上割戻引当金を差額補充法により設定した。売上割戻引当金は、当期末における当社の売掛金残高 1,000,000 円に対し 1%設定する。なお、決算整理前残高試算表の売上割戻引当金残高は、8,000 円である。
10. 常盤商店は、決算に当たり特許権（帳簿価額：1,200,000 円）の償却を行った。特許権は当期首に発生したもので、8 年間の均等償却によるものとする。